

宮崎シーガイアトライアスロン大会 2022
COVID-19 感染拡大防止対策マニュアル

目次

1. 基本方針
2. 本大会実施に関して
3. 大会概要
4. 大会スケジュール
5. 大会図
6. コロナ対策組織体制
7. 観客及び参加者へのアナウンス、オペレーション
8. 大会開催にあたっての作業及び周知
9. 資機材対応
10. その他

1. 基本方針

宮崎シーガイアトライアスロン大会は、大会に関わる全ての人の健康と安全を第一に考えています。大会主

催者は、すべての選手の健康を守るための適切な措置を講じ、大会参加中に迅速な医療を確実に受けることができるようしなければなりません。また、感染症の感染を防ぐための予防措置を講じ、感染のリスクを最小限に抑えるための緩和措置を講じるとともに、緊急の医療を必要とする選手や参加者が医療施設を利用できるようしなければなりません。

【5つの主要な柱】

私たちは下記の5項目を遵守し、安心・安全な大会運営を行います。

- ① ソーシャルディスタンス
- ② 接触を最小限に
- ③ 参加者の健康調査と自己行動管理
- ④ 参加者の自律性向上
- ⑤ 教育

2. 本大会実施に関して

- 開催地、開催時期に下記の状況が整っていること。
 - 政府、自治体、大会実行委員会、医療関係者、競技団体と協議の上、開催について判断する。
 - ① 緊急事態宣言が解除されていること
 - ② コースで使用する自治体からイベントの開催が認められていること
 - ③ 新型コロナウイルス感染症に関する診療体制が整っていること
 - ④ 全ての参加者の健康状態の管理体制が整えられていること
 - 開催2週間前から行動記録・体調管理・検温・報告の義務
 - 大会後2日以内に新型コロナウイルス感染があった場合は、大会事務局に連絡をする

3. 大会概要

■競技

原則として、ITU競技規則ならびにEOM（イベントオーガナイザーマニュアル）に従う。

- (1) 参加選手数
 - ・会場、コースでの密を回避するため、550名を上限とする
 - (2) スイム
 - ・750m×2周回の1.5kmとする
 - ・スタート前、選手はマスク着用、間隔を空けて（最低1m）待機
 - ・スタート時は1m間隔で並ぶ
 - (3) バイク
 - ・13.3km 3周回の40kmとする
 - ・ドラフトинг不可
 - (4) ラン
 - ・4周回の10kmとする
- *状況によって要調整
- (5) トランジション

- ・バイクラック間は ITU EOM による（1mで設営予定）
- ・同じカテゴリーが対面にならない様にトランジションの配置を工夫する

(6) エイドステーション

- ・セルフ方式とする
- ・飲み残し、コップは所定場所に捨てる

(7) フィニッシュ

- ・フィニッシュ後はマスク着用し、速やかに移動を促す
- ・トランジションエリアには長時間滞留しない

- ・エイドステーション

- ① セルフ方式
- ② スポーツドリンク等の飲料については、使い捨ての紙コップで提供すること。
- ③ 給水コップなどの間隔を十分取ること。
- ④ エイドエリアのスペースを十分取ること。
- ⑤ 果物等の食品については、一人分を小皿に取り分けたものを参加者に提供するなど、工夫を行うこと。
- ⑥ 飲食物を取り扱うスタッフにはマスク、フェイスシールド、手袋を着用すること。
- ⑦ 競技前後においては、参加者が飲食物を手にする前に、手洗い、手指消毒を行うよう声を掛けること。

4. 大会スケジュール

(1) 6月25日（土）

時間	選手登録	男子	女子	会場
13:00～17:00	全選手	○	○	シーガイアコンベンションセンター入口付近1F駐車場

(2) 6月26日（日）

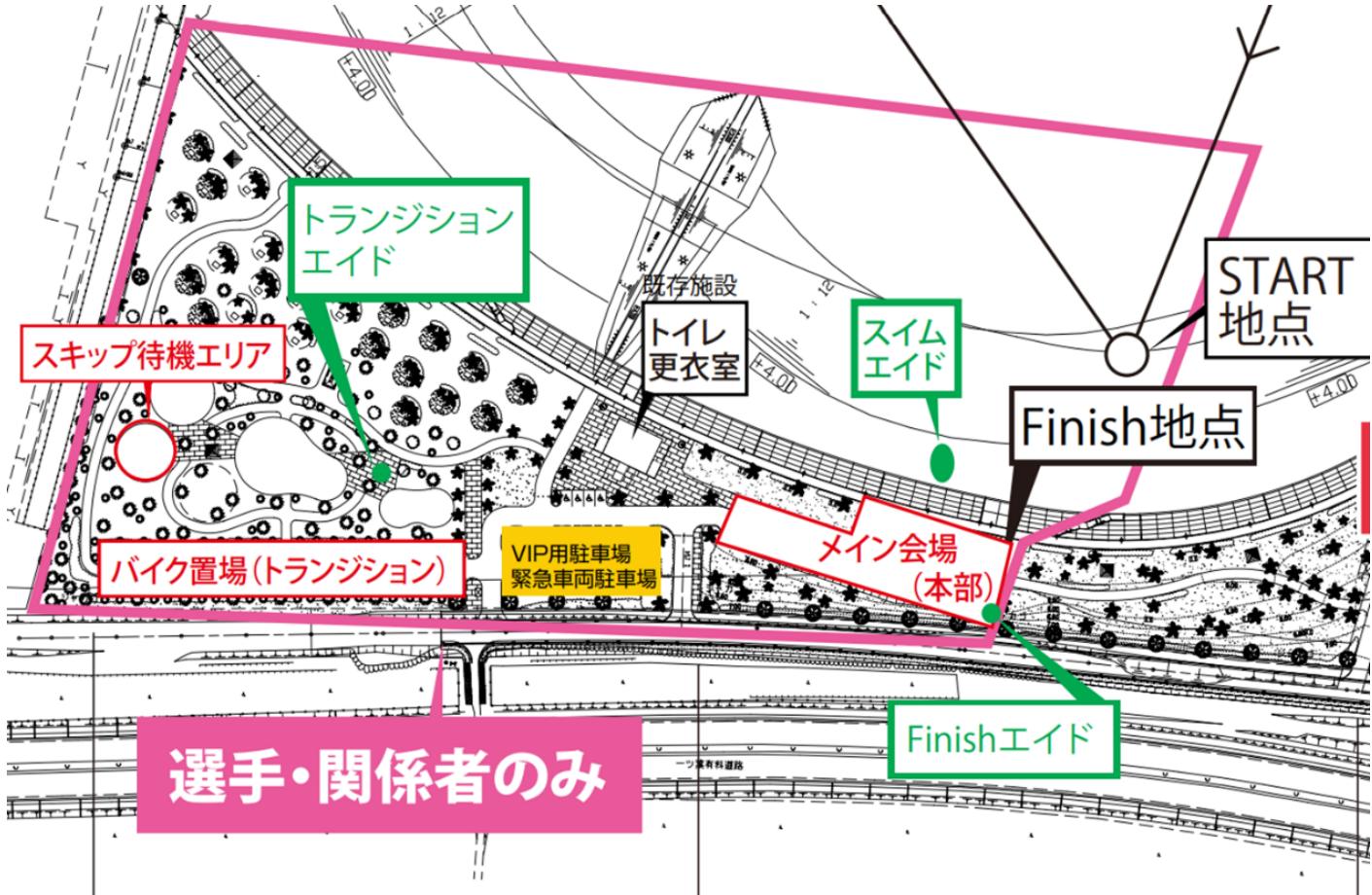
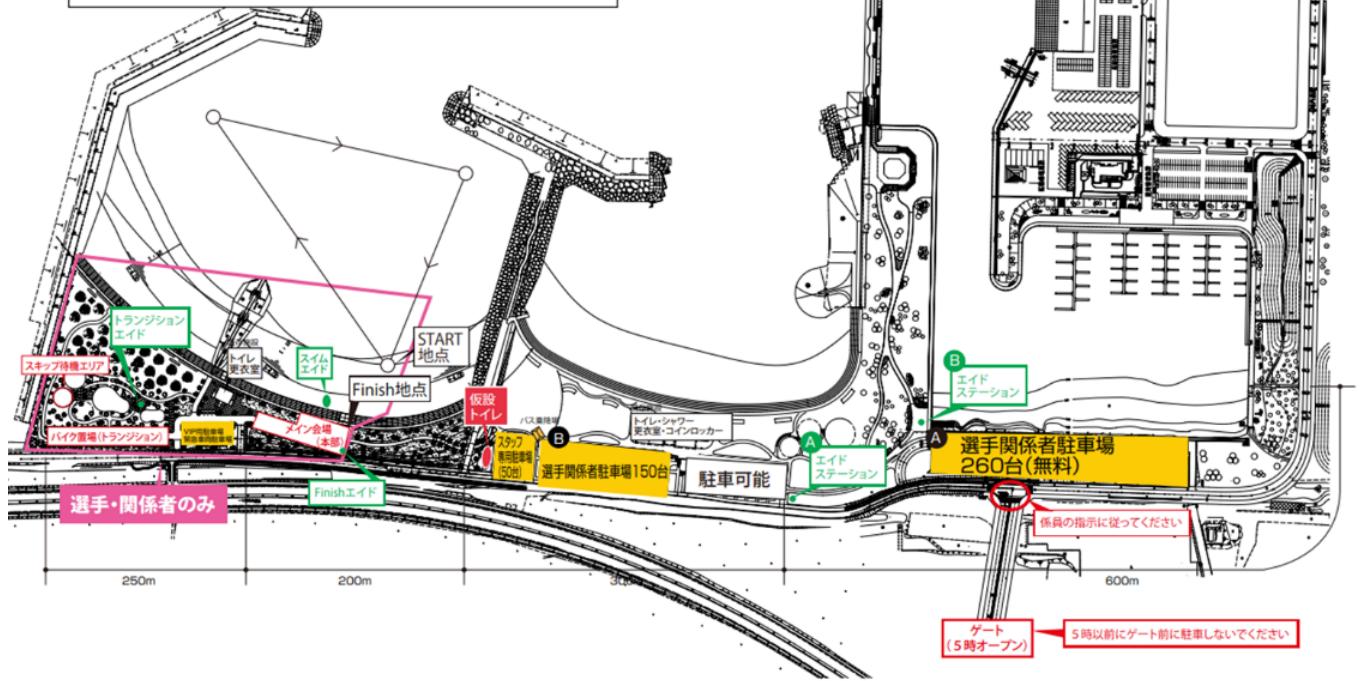
時間	項目	会場
6:30～ 7:30	バイク搬入 ※時間厳守 (マスク着用義務、体温チェック実施)	トランジションエリア
7:30～12:40	交通規制 (一ヶ葉有料道路)	会場周辺
7:30～ 7:50	スイム試泳	北ビーチ
8:00	スイムスタート (10秒毎のローリングスタート) バイク搬出は隨時可能	北ビーチ

5. 大会図

- #### ・コース図及びコロナ対策エリア

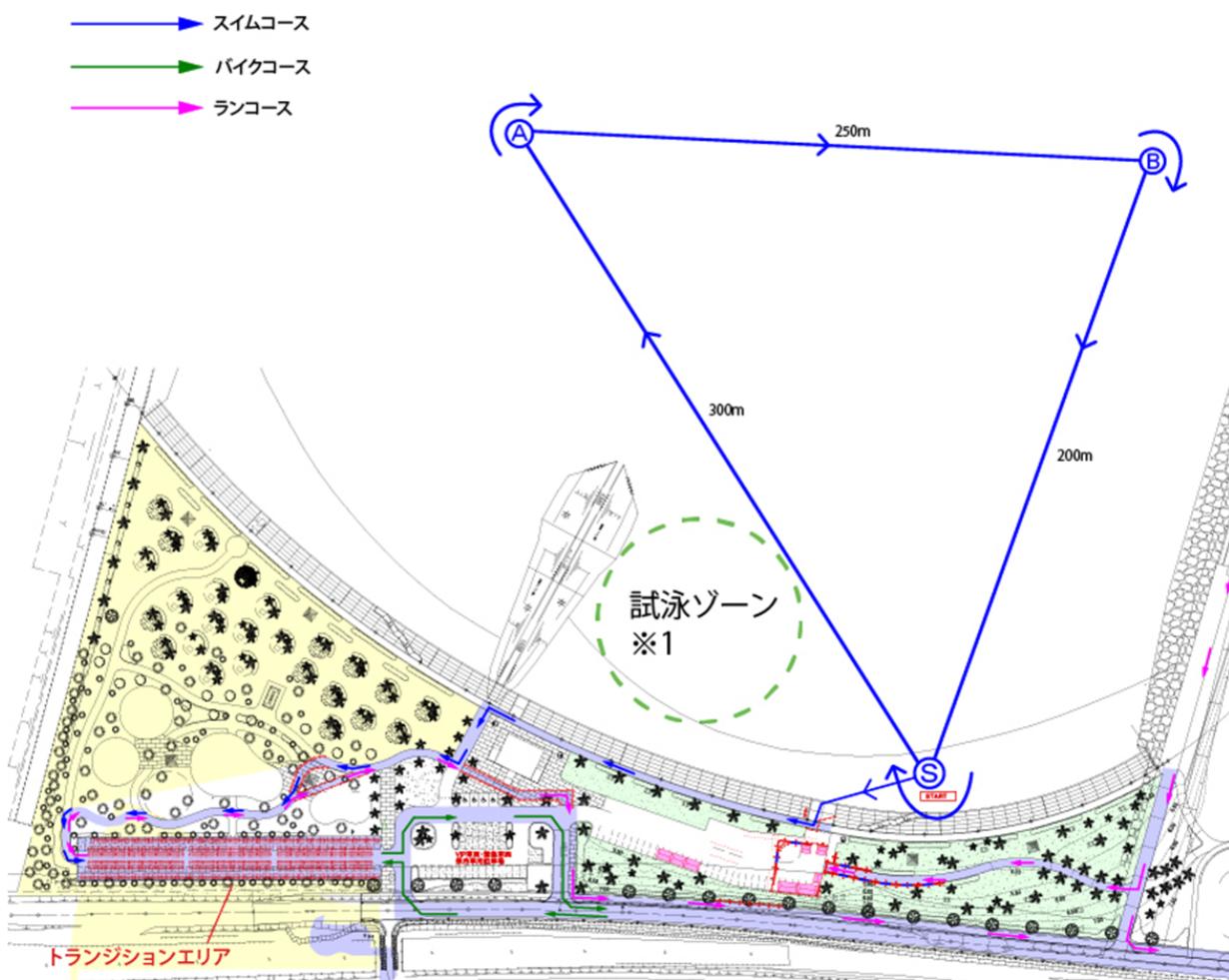
■会場全体図

- Ⓐ 選手関係者駐車場 260台(無料)
- Ⓑ 選手関係者駐車場 北側200台
 - ※荷物が多く少しでも会場の近くを希望される方
 - ※当日朝5:00開門

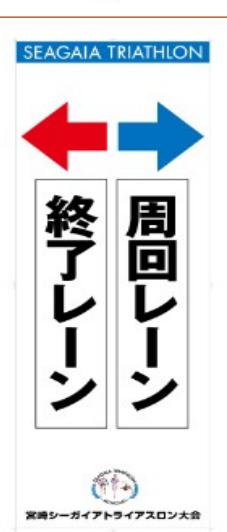
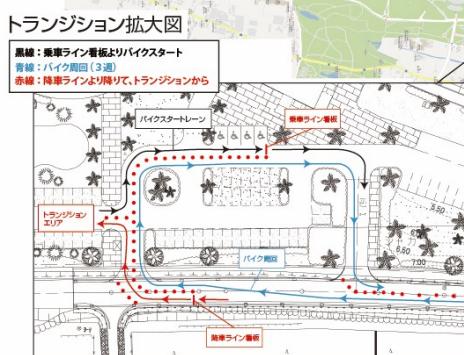


■スイムコース図

●スタンダード (1500m) S → A → B → S → A → B → S フィニッシュ

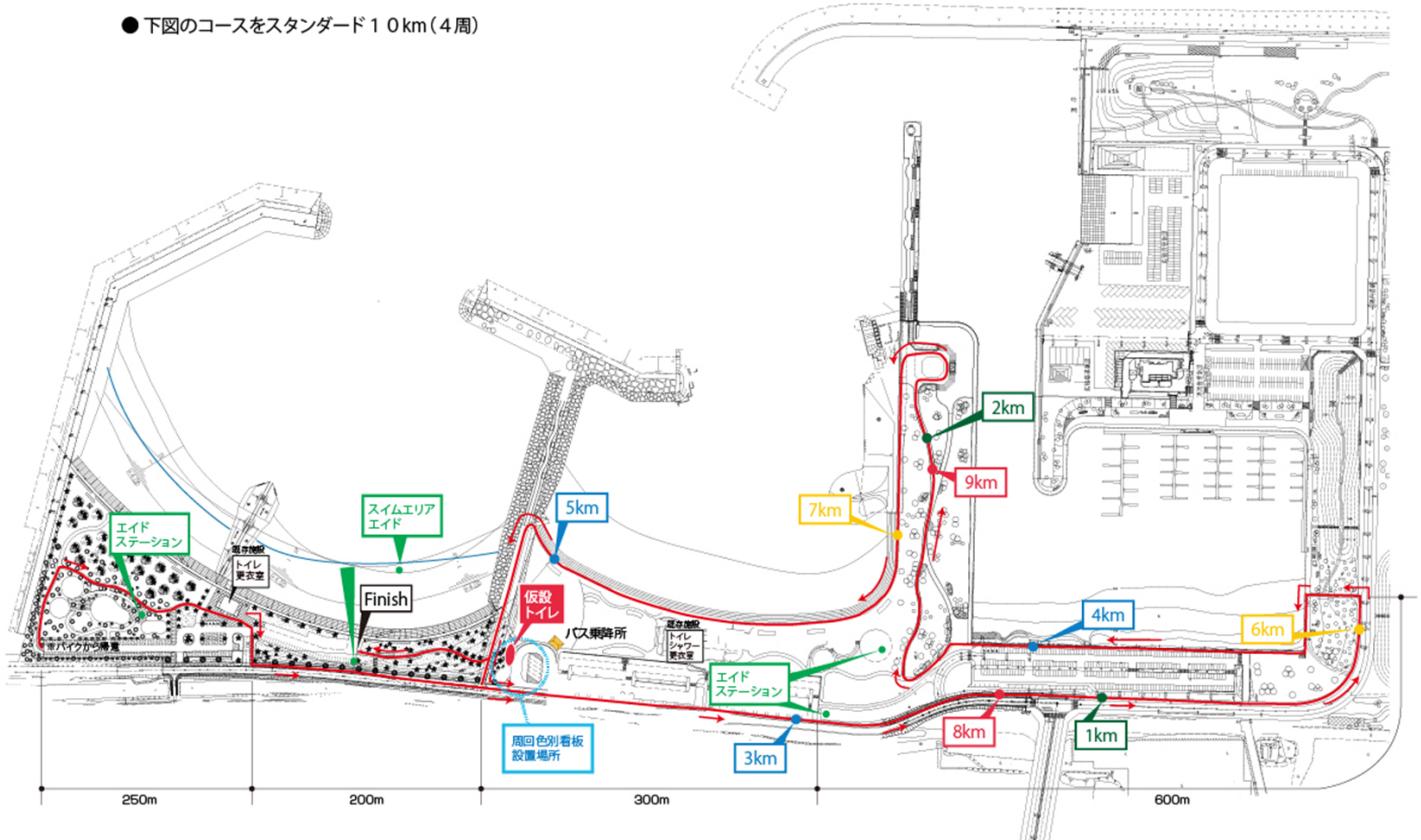


バイク 3周回



■ランコース図／スタンダード

●下図のコースをスタンダード10km(4周)



6. コロナ対策組織体制

主催者代表 押川 紘一郎
コロナ対策部長 園田 美沙

7. 観客及び参加者へのアナウンス、オペレーション

(1) 選手

大会2週間前からの健康チェックシートの提出
スタート直前までマスク着用
レース後会場にとどまらず会場から出てもらう

(2) 観客

ゾーニングエリアへの立ち入り禁止
大声やハイタッチの応援を控える

8. 大会開催にあたって作業及び周知

(1) 組織対応

ア 感染症予防対策本部の設置
[対策本部 (大会事務局)]
[構成員]

※ マニュアル作成にあたっては、大阪城トライアスロン大会を参考にし、メディカル関係者及び競技

運営部と相談

※ 緊急時の決定を下すための対策本部を設置する。構成員は、組織委員会、大会事務局、競技団体、メディカルチームから緊急時の決定をするメンバーを選出し、多方面からの判断で開催の可否、中断の決定をする。これは、大会の開催前から終了後まで機能する。

イ 感染予防対策としての準備物品

- ・マスク（1200枚）、アルコール消毒液（3L×4）、フェイスシールド（30個）、
使い捨てゴム手袋（100枚×3）、キッチンタオル（×10）、
非接触型体温計（10個）、扇風機（16台）、注意喚起看板（50個）

（2）参加選手への対応

ア 健康管理について

事前健康チェックを前日まで記入し、大会前日に選手受付にて提出すること。

- ・健康チェックシート（体温、咳、痰、鼻汁、咽頭痛、息苦しさ、倦怠感、食欲低下、味覚異常・嗅覚異常の有無、近親者に左記の症状がないかなど）を記入し提出すること。

イ 感染予防についての事前周知

「参加者ガイドブック」で、感染予防のため参加者に厳守（協力）事項として以下の10項目を周知する。厳守できない場合は、他の参加者の安全を確保する等の観点から、大会への参加を認めない、または、途中退場を求めることがある。

- （ア）普段から「密閉」「密集」「密接」を避け、こまめな手洗い・うがい、咳エチケットに気をつけ、健康維持に努めること。大会会場でも同様の行動に協力すること。
- （イ）大会参加時の移動（行き帰り）は密集・密接を避けるように注意喚起する。
- （ウ）大会会場に入る前に、必ず検温チェックを行う。
- （エ）以下の事項に該当する場合は、自主的に参加を見合わせること。
 - a 体調がよくない場合（例：発熱・咳・鼻汁・咽頭痛・息苦しさ・倦怠感・食欲低下・味覚異常・嗅覚異常などの症状がある場合）。
 - b 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合。
 - c 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合。
 - d 基礎疾患（特に肺疾患、心疾患、高血圧、糖尿病など）のある方、自らが感染した場合重症化するリスクが高いため、自主的に参加を見合わせる。
- （オ）マスクを持参すること（競技を行っていない時や会話をする際にはマスクを着用すること。スマスマスタート前の待機エリア内も着用し、スタート前に回収廃棄する。（フィニッシュでマスクを配布する）
- （カ）対人距離※ソーシャルディスタンス（できるだけ2m以上）を確保すること。（障がい者の誘導や介助を行う場合を除く。）
- （キ）イベント中は必ずマスクを着用すること。（会話、大声を出しての応援は避けること）
- （ク）会場内では感染防止のために主催者が決めた各種措置の遵守ならびに指示に従うこと。
- （ケ）行動記録の推奨
大会前後2週間の出向いた場所、同行者について、特に人混みに入る場合だけでも可能な範囲で記録しておくことを推奨。

(コ) 大会終了後2日以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に対して速やかに報告すると共に濃厚接触者の有無等についても報告すること。

ウ 競技説明会について

※ 大会前日の競技説明会は現地で対面では行わない。

(ア) 競技説明会をWeb形式(オンデマンド)に変更する(2週間前から公開)。事前周知方法として、メールでの案内及び参加者ガイドブックをホームページに掲載する。

(イ) 競技説明会の出席証明について

動画閲覧

エ セレモニーの縮小・中止について

※ スケジュールの都合上、事前に周知する。

(ア) 開会式、表彰式、閉会式などのセレモニーは中止する。また、競技終了後、速やかな帰宅を促す。

(イ) 上位入賞者と結果発表は後日大会ホームページ上で発表する。

オ 試泳について

スイム審判員・スタッフ・宮崎ライオンズクラブを配置し、選手の直前までのマスク装着と回収廃棄を管理する。(再度装着用マスクの準備) 長時間の試泳(走)時間を確保して、選手の密集密接を防ぐ。

カ 大会の中止(延期)になった場合の対応について

大会ホームページにて速やかに告知する。

※ エントリーのカテゴリー変更、キャンセル時の返金等について参加選手の不安、不満解消に努める。

(3) 観戦者への対応

ア 選手への観戦や応援については自粛してもらうよう周知する。大会会場内では無観客とする。

※ 付添者には選手同様、健康チェックを実施していただく。

イ 大会会場来場時のマスク着用を周知する。

※ 選手と同様、事前に以下の注意事項(ア～キ)について大会ホームページに掲載し周知する。

(ア) 「密閉」「密集」「密接」を避け、こまめな手洗い・うがい、咳エチケットに気をつける。

(イ) 大会来場時の移動(行き帰り)は密集・密接を避けるように注意喚起する。

(ウ) 以下の事項に該当する場合は、来場・観戦を控えること。

a 体調がよくない場合(例:発熱・咳・鼻汁・咽頭痛・息苦しさ・倦怠感・食欲低下・味覚異常・嗅覚異常などの症状がある場合)。

b 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合。

c 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合。

d 基礎疾患(特に肺疾患、心疾患、高血圧、糖尿病など)のある方は、自らが感染した場合重症化するリスクが高いため観戦をおすすめしません。

(エ) 観戦や応援については、自粛をお願いする。応援時は大声での応援・ハイタッチ・濃厚接触を控え、マスクの着用・ソーシャルディスタンス(隣の人と2m以上距離を保つ)を守った観戦・応援をお願いする。

(オ) 以下の応援スタイルは感染リスクが高いので避ける。

大声での声援、ハイタッチ、集団での動きを伴う応援、指笛、ホイッスルなどの鳴り物。

- (カ) 会場内では感染防止のために主催者が決めた各種措置の遵守ならびに指示に従うこと。
- (キ) 大会終了後2日以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に対して速やかに報告すると共に濃厚接触者の有無等についても報告すること。

(4) 大会スタッフへの対応

審判員、ボランティア、スタッフ、競技役員、本部役員、メディカル、ライフセイバー、水上スタッフ、設営スタッフ、計測スタッフ、警備スタッフ、事務局スタッフ、来賓、メディア等にも、選手と同様にお願いする。

※ 記者、カメラマン等、報道関係者にも取材申し込み案内時に、注意事項について周知し遵守を求める。

ア 健康管理について

前述 ※(2)ア 表記同様

イ 感染予防についての事前周知

(ア) 普段から「密閉」「密集」「密接」を避け、こまめな手洗い・うがい、咳エチケットに気をつけ健康維持に努めること。大会会場でも同様の行動に協力すること。

(イ) 大会参加時の移動（行き帰り）は密集・密接を避けるように注意喚起する。

(ウ) 以下の事項に該当する場合は、参加を自主的に見合わすこと。

a 体調がよくない場合（例：発熱・咳・鼻汁・咽頭痛・息苦しさ・倦怠感・食欲低下・味覚異常・嗅覚異常などの症状がある場合）。

b 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合。

c 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合。

d 基礎疾患（特に肺疾患、心疾患、高血圧、糖尿病など）のある方は、自らが感染した場合重症化するリスクが高いため、参加を自主的に控えていただく。

（エ）行動記録

大会前後14日間の出向いた場所、同行者について、特に人混みに入る場合だけでも可能な範囲で記録しておく。

(5) トランジション封入作業（大会前日／レースナンバー、参加賞等）

※ 3密を避けての作業実施。トランジションは前日に渡す。

ア 選手との直接受渡を避けるため、予め封入作業を行う。

イ 作業スタッフ数については、少人数制により短時間で終了する。

ウ 接触感染対策として、封入物の内容を極力減らす。

(6) 大会スタッフの対応

ア 大会会場においてマスクを各自で準備し着用する。各自で準備した手指消毒液を携帯する。

（選手は受付やトランジションへの準備・片付けなど競技前後、大会スタッフは期間内全て）

イ 頻回の手洗いおよび手指消毒の推奨。（必要に応じて選手、コーチ、スタッフに対して体温測定を行い、体温が37.5℃以上の場合は大会医療代表に報告すること。）

ウ 受付及びミーティング時の密を避ける。

（ア）ミーティング内容の事前周知でミーティング時間を短縮する。

（イ）ミーティングは屋外で実施する。

エ 審判員のドレスコードに以下を追加とする（ボランティア、スタッフも同じ）

（ア）集合受付時に健康チェック、検温、各自で準備したマスク着用・アルコール手指消毒液の携帯。

（イ）ポジション毎にマスク・フェイスシールド・ゴム手袋を適宜着用する。

オ 機材を定期的にアルコール消毒する。

（7）各エリアにおける準備及び作業

ア 当日選手受付→なし

（ア）検温

会場入り口にて非接触型体温計で検温し、37.5°C以上の者には大会に出場できないこと、会場への入場もできないことを伝える。（徹底管理すること）発熱が分かった場合、大会本部・メディカルに報告する。選手およびスタッフの連絡先を把握しておく。

（イ）マスク着用義務、手指アルコール消毒の協力をお願いする。

（ウ）密を避ける

選手の滞留を防ぐために出来ることを検討し、可能な限り簡素化する。

（エ）トランジションエリア入口にて健康チェックシートを提出。

a 氏名、年齢、住所、連絡先（電話番号）※個人情報の取扱いに十分注意する。

b 大会当日の体温

c 大会前2週間における以下の事項の有無

（a）平熱を超える発熱（概ね37.5度以上）

（b）咳（せき）、のどの痛みなど風邪の症状

（c）だるさ（倦怠（けんたい）感）、息苦しさ（呼吸困難）

（d）嗅覚や味覚の異常

（e）体が重く感じる、疲れやすい等

（f）新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触の有無

（g）同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合

（h）過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合

（オ）すべての参加者への周知

a マスク着用を原則必須とし、必要に応じてフェイスシールド、ゴム手袋の着用、手指消毒液を携帯する。

b 定期的な室内の換気、周辺のアルコール消毒を実施する。

c 整列及び誘導によりソーシャルディスタンスと導線確保を徹底する。

d 3密を避ける。

イ スイムエリア

（ア）審判員はマスクの着用と手指消毒液を携帯する。

（イ）選手はスタートまでの待機エリアではマスクの着用徹底と会話を控える。（忘れた選手には、NOを控え予備マスクを渡す）

（ウ）スタート前に着脱するマスクは回収箱に選手自身で廃棄する。

（エ）スイム時、マスクをしていないため、十分な距離を空けるように特に留意する。審判員、宮崎ライオンズクラブからの声掛けをする。

（オ）ローリングスタート方式の実施。（ウェーブ別、6人ごとのローリングスタートとする）

(カ) スタート待機時は選手間の間隔をあけるよう声掛けをする。

ウ　トランジションエリア

レース中を除き、選手にはマスク着用をお願いする（会話を控える）

(ア) 審判員、ボランティアは必要に応じてマスク・ゴム手袋の着用と手指消毒液を携帯する。（必要時はフェイスシールド着用）

(イ) トランジション内バイクラックの自転車間隔を空ける。ラック間は2列間を4m、選手同士は1mのスペース。隣接ウェーブごとに、間隔を空ける。

(ウ) 機材をアルコール消毒する。

(エ) トランジション開放時間、入場人数の制限やピックアップについての導線を確保する。

エ　バイクエリア

(ア) 審判員はマスク着用と手指消毒液を携帯する。（必要時はフェイスシールド、ゴム手袋着用）誘導の際も、観客との距離と密接に注意する。

(イ) ドラフティング禁止

(ウ) マスクにより声が通りにくくなると思われる所以、拡声器やメガホン、掲示板、旗、笛など準備し使用する。

(エ) **レース中のマスクの着用は選手の判断によるものとする。**

※ マスク（特にN95など外気を取り込みにくいもの）を着用して運動やスポーツを行なった場合、十分な呼吸ができずに人体に影響を及ぼす可能性があることに留意し、審判員は注意を払うこと。

オ　ランエリア

(ア) 審判員はマスク着用、手指消毒液を携帯する。（必要時はフェイスシールド、ゴム手袋着用）誘導の際も、観客との距離と密接に注意する。

(イ) 走行時は極端に選手に近づかない。お互いにハイタッチはしない。

(ウ) 声が通りにくい箇所（横断路やUターン箇所）では、拡声器やメガホン、手持ちの掲示板、旗などを準備し使用する。

(エ) **レース中のマスクの着用は選手の判断によるものとする。**

※ マスク（特にN95など外気を取り込みにくいもの）を着用して運動を行なった場合、十分な呼吸ができずに人体に影響を及ぼす可能性があるため、審判員は注意を払うこと。

カ　エイドステーション

(ア) 審判員、ボランティアはマスク・フェイスシールド・ゴム手袋の着用と手指消毒液を携帯する。

(イ) エイドステーションの提供はセルフ方式とする。ボランティアからの手渡しは避け、選手へのサポートは減らす。飲料の提供は、使い捨ての紙コップで提供。紙コップの回収方法を選手に事前周知し遵守してもらう。

(ウ) エリアのスペースを延長する。（テーブルの増設）

(エ) ボトルを持っての走行をローカルルールにて許可とする。

キ　フィニッシュエリア

フィニッシュ後の選手は、ウイルスに対する抵抗力が落ちており、感染リスクが高まっていることを

認識しておく。選手へのサポートを減らすことで接触を回避する。

- (ア) 審判員、ボランティアはマスクを着用する。必要に応じてフェイスシールド・ゴム手袋の着用と手指消毒液を携帯する。
- (イ) 3密を避ける。
 - ※ フィニッシュレーンの分割。(線を引く)
 - ※ フィニッシュエリアに選手が滞留しないよう、速やかに退場を促す。
 - ※ フィニッシュ後の移動導線は一方通行とする。
 - ※ ドリンク他がある場合は、選手が自分で取れるように配置する。
- (ウ) アンクルバンド(タイミングベルト)は選手が自分で外し返却する。
- (エ) 以下は提供しない。
 - ※ フィニッシュテープは使用しない
 - ※ フィニッシャータオルはなし
 - ※ 同伴フィニッシュは認めない
 - ※ アイスバスは設置しない
 - ※ フィニッシュ後の飲料水の提供は、セルフ方式とする。
 - ※ マスクをセルフ方式で配布する。
 - ※ その他提供物は無し
 - ※ フィニッシュ後の休憩場所は設置しない。滞留しないような導線計画で誘導をする。

ク 更衣室は用意しない

ケ 荷物預かりはなし

コ メディカル体制の準備

- (ア) 地域の保健所や受入医療機関の体制確認。
- (イ) マスク、ゴム手袋を全救護対応について着用する。(必要に応じてフェイスシールドを着用)
- (ウ) 救護対応時必要に応じて防護服(代用品のカッパ)を使用する。
- (エ) 救護ベッドは清拭消毒可能なベッドとし使用したリネン類は一回ごとに交換する。枕等は使い捨てのカバーを準備する。
- (オ) 感染が疑わしいケースへの対応策の準備。
- (カ) 濃厚接触となる心肺蘇生等の処置発生の際は、救護症例のその後の経過把握を搬送医療機関に依頼し、救護症例がPCR検査で陽性となった場合など情報の提供や把握に努める。救護対応の担当者名の記録を症例ごとに残すようとする。
- (キ) 医療従事者の保険に加入する。
- (ク) その他
 - a 参加までに症状や、濃厚接触者となって相談があった場合(電話、メール等)
 - (a) 大会会場に来場前であれば参加は控えていただく。
 - (b) 帰国者・接触者相談センター、保健所へ連絡し、指示に従うように依頼する。その際に連絡先等の確認をし、選手であれば返金や参加賞の発送などの手続きについて説明する。
 - ※ 帰国者・接触者相談センター(厚生労働省)
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/covid19-kikokusyasessyokusya.html

(c) 対策チームで情報を共有し、その後の対応について協議する。情報共有のタイミングは感染を疑う者から相談を受けた時点とし、適宜情報共有する。

b 感染を疑う者が直接大会事務局を訪ねてきた場合もしくは会場入り口で発熱が判明した場合
隔離対策の準備

(a) 体温測定を実施する。

37.5°C以上のものは、別エリアにて再測定を実施する。再測定、問診対応者はマスク、フェイスシールド、ゴム手袋、防護服を着用すること。再測定でも 37.5°C以上の者は参加を認めない、近隣の相談センターへ相談する。

(b) 別紙に沿って詳細な問診も併せて実施し、保管しておく。

(8) その他の留意事項

ア 万が一感染が発生した場合に備え、個人情報の取扱いに十分注意し、大会当日に参加者より提出を求める書面（事前健康チェック）について、1ヶ月の保存期間を定める。

イ 大会終了後に、参加者から新型コロナウイルス感染症を発症したとの報告があった場合や地域の生活圏において感染拡大の可能性が報告された場合の対応方針について、開催自治体の衛生部局と予め検討しておくことが必要。

ウ 全参加者とスタッフに発症があった場合には必ず事務局に連絡をするよう周知する。

エ 大会終了後2日以内に発症連絡があった場合本人のリザルト情報から同時走行者等がわかるよう抽出することが望ましい。また、本人の同意のもと対応行政機関、保健所等に接触者などの情報提供をする。

オ 大会の全期間を通しての対応記録等については電子データ化し関係機関に提供できるようにしておく。大会終了後にPCR検査陽性者が発生した場合は

行政関係機関と調整をし、情報の共有を図り感染拡大防止のために協力をする。

(9) 広報、周知

感染症拡大予防策を講じながら大会を開催するためには、大会に集う全ての人に協力を求め、丁寧に各局面のスムーズな遂行が必要である。また、周辺住民の理解と協力が得られるよう努める。

ア 本大会での感染症拡大予防策（運営方法）を周知する。競技会場及び競技コース沿道に看板を設置、手持ち看板等で周知に努める。

イ 感染症拡大予防策を大会ホームページ、SNS等で周知する。

9. 資機材対応

(1) 会場設営

ア テント、トランジションエリア、コース設営については、一方通行になるよう導線を計画する。

イ 設置間隔を充分にとるように配慮する。テントの横幕は密閉しない構造とし、扇風機による換気、消毒を定期的に実施する。

ウ 仮設トイレについて

密にならないように設置を計画する。利用者列の間隔を明示する。手洗い場、もしくはアルコール消毒液を設置する。マイタオルの持参を推奨する。定期的にアルコール消毒液によるドアノブなどの清掃を実施する。

(2) 消毒剤、衛生資材、安全対策資材の配置計画（本部、トランジション、トイレ等）

ア ポジション毎に、衛生用品の（マスク、アルコール消毒液(濃度70%)、石鹼、ペーパータオル・ゴム手袋、体温計等）配置計画を作成し、必要量を準備する。

イ 選手等との接近接触を伴う配置のスタッフへ、フェイスシールド・ゴム手袋を必要量準備する。

ウ 対面応対をするポジションでは、スタッフのフェイスシールドの着用と間仕切り（透明ビニールシート）を設置する。

エ 通常の医療物品のほかに、来場時の体温測定機材の設置。

入場エリアに非接触式体温計を設置し全員に検温を実施する。専任のスタッフが対応する。

(3) 感染症拡大予防への協力と注意喚起看板設置と配置計画

ア 基本的注意項目、整列案内、手洗い方法の掲示案内、「20秒間石けんで…」など。

イ 競技エリアでの周知。

10. その他

(1) 会場入口を限定して検温の実施とマスク着用の周知を徹底する。

(2) スポンサーブース、バイクメカニックブースの中止。

※参考資料

(参考1) 首相官邸『新型コロナウイルスお役立ち情報』

https://www.kantei.go.jp/jp/pages/coronavirus_info.html

(参考2) 厚生労働省『新型コロナウイルス感染症について』

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html

(参考3) 厚生労働省『新型コロナウイルス感染症についての相談・受診の目安について』

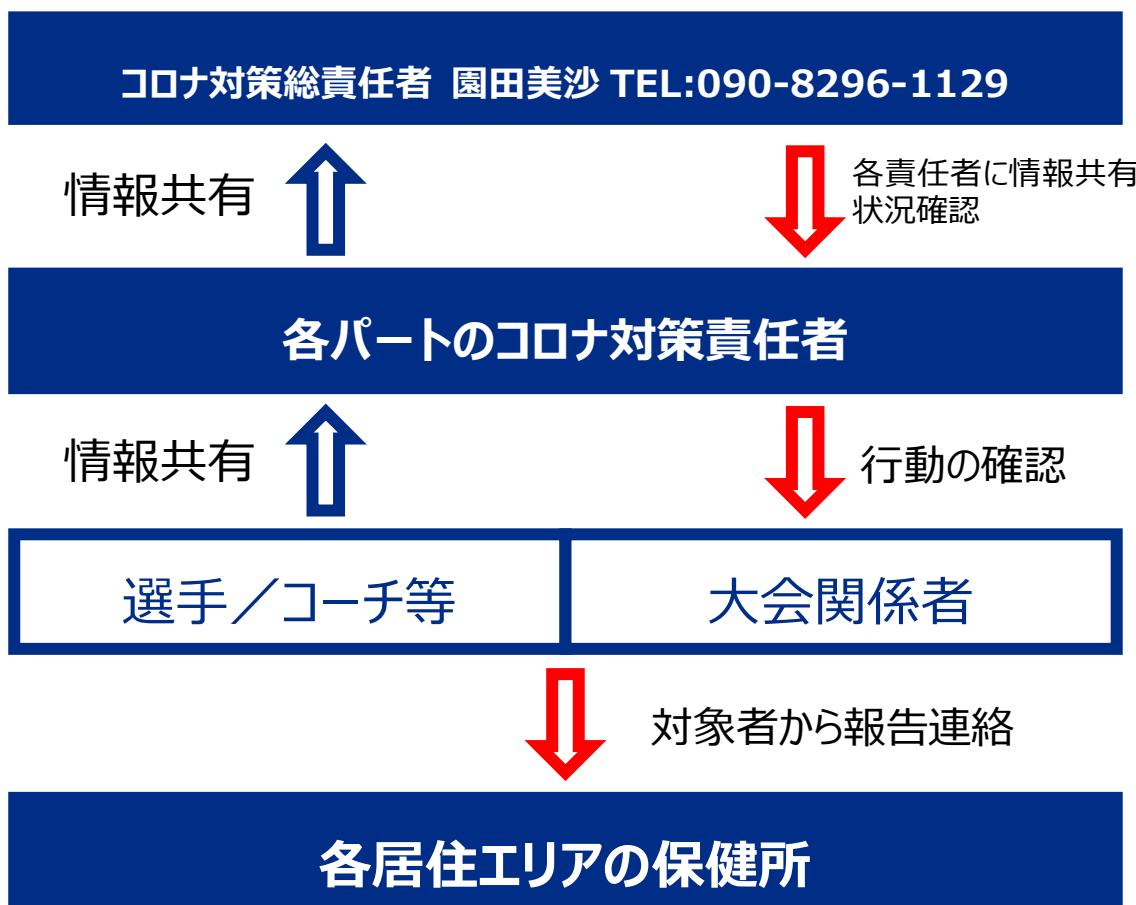
<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000596978.pdf>

10.体調不良者発生時の連絡系統図（大会開催前後）

イベント開催前後に選手、チームスタッフ、TO、関係者、スタッフから

感染・感染の疑いのある者が出了た場合（前後各2週間）

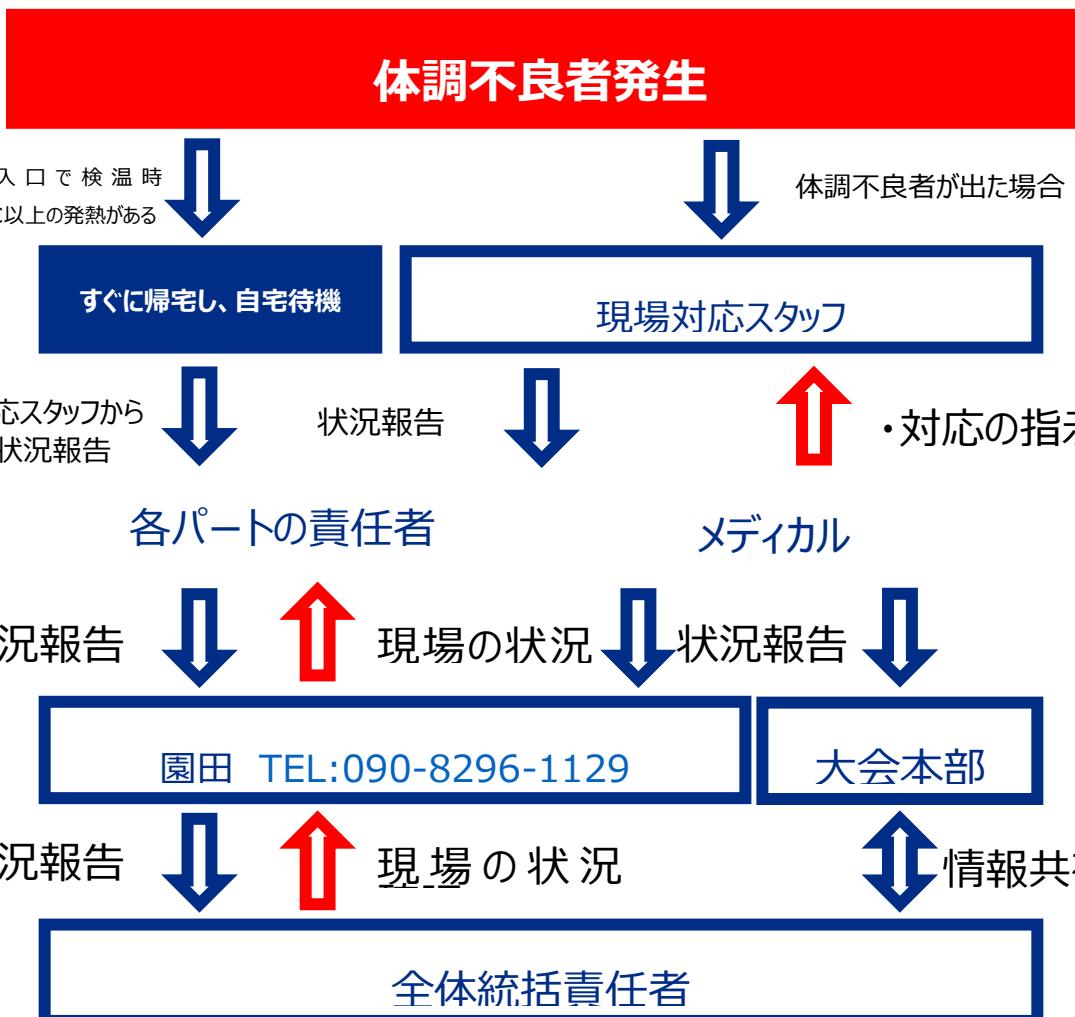
- 感染者、感染の疑いのある者が出了た場合には速やかに報告してください。
- コロナ対策総責任者は、各担当より報告を受けた場合、速やかに事務局へ報告して下さい。
- コロナ対策総責任者は情報を集約し、各コロナ対策責任者へ必要な情報を共有し、速やかにその後の対策を状況に合わせてメンバーを選定し検討判断する。



1.1.体調不良者発生時の連絡系統図（大会開催中）

大会当日に感染・感染の疑いのある者が出了した場合

- 感染の疑いのある者が発生した場合には速やかに連携が図れるよう連絡体制を整え、各担当の責任者に連絡してください。
- 自宅、宿泊先で異常を感じた場合には各自、各社で対応をおこない、本人、濃厚接触を疑われるものはイベントへの参加を見合わせるようにしてください



■大会における新型コロナ対策窓口

TEL0985-89-4899

■宮崎市新型コロナ受診相談センター

TEL0985-69-3699

1 2. 各関係者コロナ対策

体調管理・行動記録シートの運用方法

	1日目	2日目	3日目	4日目
	/	/	/	/
体温 (°C)	°C	°C	°C	°C
体調				
5段階評価：5 良い～1 悪い				
■ 本日の体調で気になることがあれば、該当項目にチェックしてください（複数回答可）				
以下のいずれも該当なし	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
咳がある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
喉の痛みがある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
鼻水、鼻づまりがある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
臭覚や味覚に異常を感じる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
胸が痛い・息苦しい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
息切れがする	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
頭痛やめまいがする	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
下痢や腹痛がある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
筋肉や関節に痛みがある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
疲れていて体がだるい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
その他、普段とは体の調子が異なる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
■ 日常生活で気になることがあれば、該当項目にチェックしてください（複数回答可）				
1. 外出の際、マスクを忘れることがある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2. 頻回の手洗い、手指消毒を忘れることがある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3. ソーシャルディスタンスを忘れてしまうことがある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4. 接触確認アプリ（COCOA）からアラートがきた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5. 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6. 入国制限がある国、地域へ渡航していた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7. 出張、遠征などで長距離の移動があった	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8. 大人数（5名以上）での会食をした	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9. 大人数のイベントへ参加した	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

※上記の4～9に該当する場合、感染者が発生したときにお問い合わせがありますので、「誰」と「どこ

【説明】

- Google Forms と Excel併用
- 2週間の体調チェック、行動記録と検温を実施。

1 3. P C R検査

原則、実施せず。

1 4. 競技説明会・選手受付

競技説明は web にて閲覧する。

選手受付は大会前日 13:00～17:00 に行う。

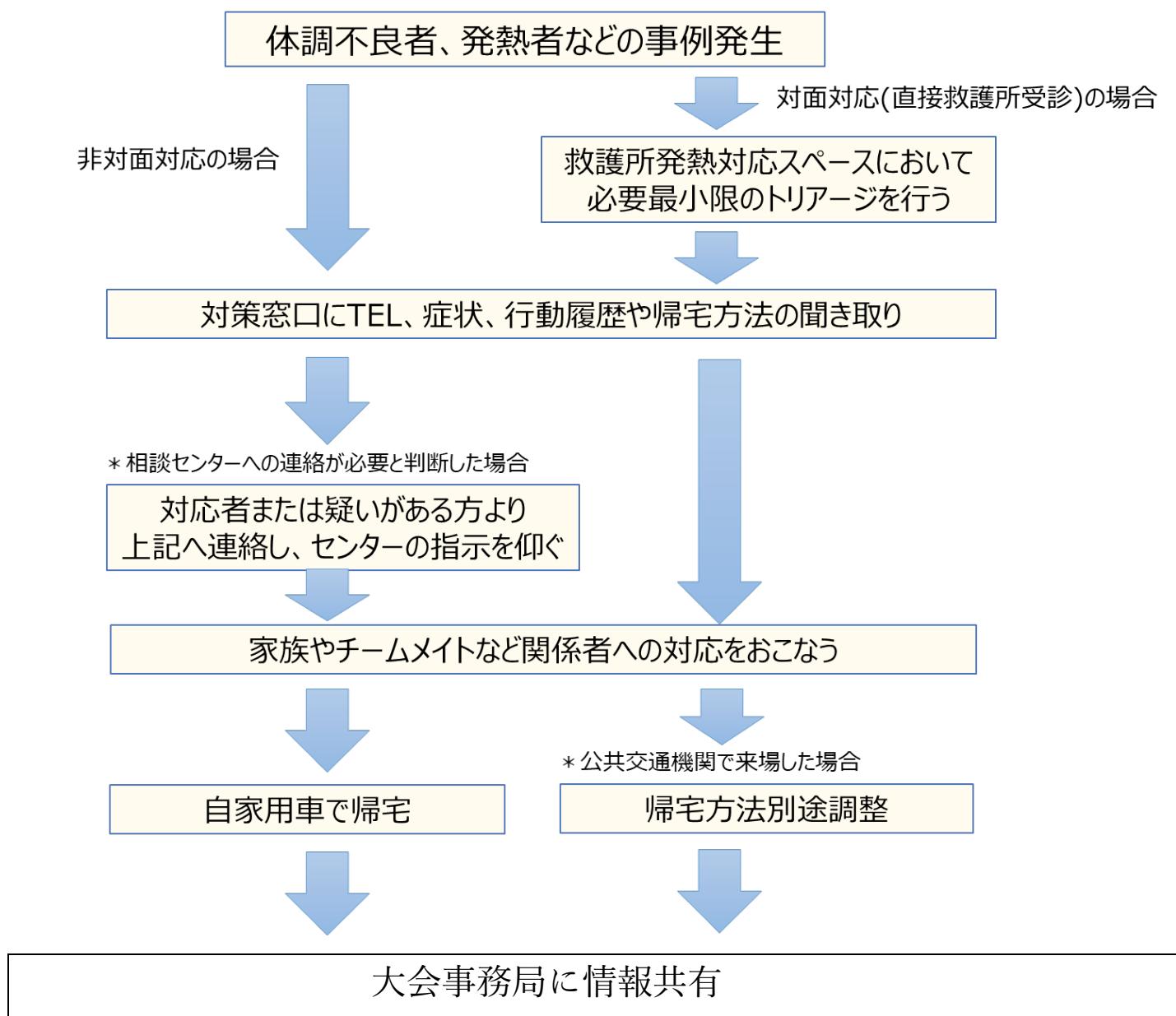
15. メディカル対応-COVID-19 疑い者発生時

新型コロナウィルス感染症疑い者発生時対応

■原則：極力直接対面しての対応は避け、電話で対応する。

やむを得ず直接対応する場合は、救護の発熱対応スペースで対応する。

■ 対応フロー



1.6. メディカル対応—傷病者発生時

■ 救護本部／救護所／救護車

選手・大会関係者・**来場者・一般人**のケガ、病気への対応（医師、看護師が常駐）

※1. **来場者・一般人**は2週間の健康チェック・行動記録を行っていないことから、**来場者・一般人**から要請があった場合には本部で電話対応の上、必要に応じて医療スタッフを要請地点へ派遣し対応する。

※2. **選手及び大会関係者**は2週間の健康チェック・行動記録を行っているので、**発熱も呼吸器症状も無ければ、通常の外来診察と同様の標準予防策（ガウン無し）**を行い対応する。

※3. **選手及び大会関係者**で**発熱や呼吸器症状がある場合は、ガウンを含めた標準予防策を行い、現場ではエアロゾル拡散に努め、短時間で対応を行う。**

■ 緊急時の指示系統

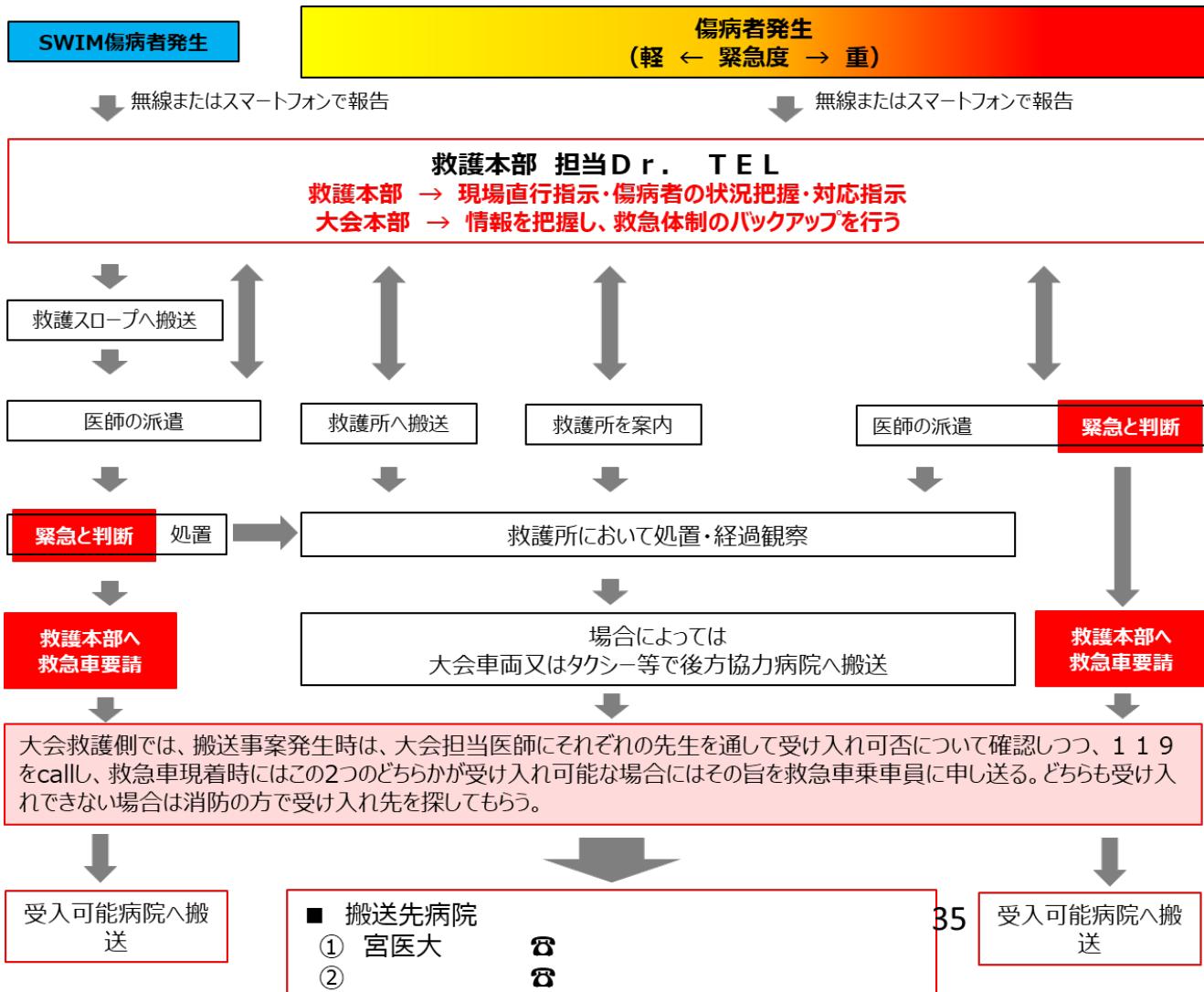
緊急時（事故・ケガ、災害等が発生した場合）の連絡体制についてはレベルに応じ、下記連絡フローに基づき迅速な連絡・報告を行い対処する。

- a. 明らかな心肺停止時にはコース上の現場から直接 119 へcallしてもよいが、その際には大阪城トライアスロン大会の救急事案であること、レースナンバー、位置情報を必ず連絡し、その後直ちに大会救護本部の笠次にも必ず連絡を入れること。**また心肺停止発生時には、標準予防策を行った上で、要救助者の口と鼻をマスクで覆い胸骨圧迫を行う。人工呼吸はBVMが無い場合は行わない。**
- b. 上記以外は全て救護本部へ連絡し、本部の指示を仰ぐこと。救護本部からの救急車要請は 119 にcallする。

【119 指令センターへの伝達事項】

- ・傷病者の関係性（選手か観客か）
- ・選手であれば、レースナンバー
- ・年齢、性別、人数
- ・傷病内容、傷病程度
- ・進入箇所の位置（メディカル配置・救急車進入経路図の進入箇所番号）
- ・警備員などの誘導の有無
- ・搬送先病院の選定状況

■ 緊急連絡フォロー



1.6. メディカル対応 - 救命処置

注 : COVID-19対応

心肺停止発生時には、標準予防策を行った上で、**要救助者の口と鼻をマスクで覆い胸骨圧迫**を行う。人工呼吸はBVMが無い場合は行わない。

要救助者が救急車で運ばれ入院する場合は、コロナ検査を依頼する。検査陽性の場合は、救助者は濃厚接触者となり保健所へ報告の上、自主隔離の対象となる。

※p10 COVID-19対応CPR参考資料参照

※COVID-19対応CPR参考資料①

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う心肺停止傷病者への対応について（消防機関による対応ガイドライン）

2020年4月27日

一般社団法人 日本臨床救急医学会



※COVID-19対応CPR参考資料②

心肺停止（CPA）症例（病院前診療を含む）に対する新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策について

2020年3月18日

救急外来部門における感染対策検討委員会

（日本救急医学会、日本環境感染学会、日本感染症学会、日本臨床救急医学会、日本臨床微生物学会 5 学会合同ワーキンググループ）



17. 備品リスト

●必要衛生備品

●必要衛生備品		救護本部	フィニッ シュ 救護所	スイム 救護所	バイク 救護車	ラン 救護所	AED 隊 ①②	計	備考
配置人数	2	9	5	3	5	各救護所 から派遣		24名	
1 不織布マスク	10	80	20	20	40	30	200		スタッフ・ 受診者・救護者用
2 ゴム手袋		30	20	10	20	20	100		
3 消毒用エタノール 据え置きと携帯	1	1	1	1	1	2	7		
4 ペーパータオル		2	1	1	1	2	7		
5 体温計（非接触型）									
6 パルスオキシメーター		1					1		
7 フェイスシールド	2	15	10	5	10	0	42		スタッフ用 プラス予備
8 クリアグラス	2	9	5	3	5		24		スタッフ用
9 蓋つきゴミ箱		2	1	1	1		5		
10 雨がっぽ	2	9	5	3	5		24		
11 医療用ガウン									
12 透明シート							2		